

平成22年度「専修学校留学生総合支援プラン」成果報告書

事業名	沖縄の国際観光振興を目的とした 留学生就業支援教育プログラムの開発と人材育成		
法人名	学校法人 南星学園		
学校名	サイ・テク・カレッジ那覇		
代表者	理事長 遠山 英一	担当者 連絡先	学院長 仲尾次 嗣明 Tel. 098-865-2800
1. 事業の目的・概要等			
<p>現在、経済的自立を目指す沖縄県は「観光客数1千万人、観光収入1兆円」を基本目標に掲げ、その対策として「外国人観光客の誘致」を課題に上げ、目標達成に取り組んでいる。一方、観光関連企業では、外国人観光客を受け入れるリゾート宿泊施設、リゾートオフィス、レストラン、国際ショッピングモール等の事業を展開中である。そのため、外国人観光客の誘致宣伝活動、外国人観光客への情報提供、快適なサービス提供を可能にする人材を多く必要としている。</p> <p>本事業では、外国人留学生の県内企業への就職意欲を高めて就労を促進し、彼らの情報発信力を沖縄観光の宣伝、誘客、情報提供に活用し、国際観光の振興に役立てたい。そのために、外国人留学生のコミュニケーション能力、観光・ITのスキルを向上させ、外国人観光客の誘致、受入増加に対応しうる人材を育成するためのプログラムを開発し、実践する。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①r カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>○ カリキュラムの内容は、県内企業への外国人採用に関するアンケート調査を元に、企業が求める人材像と外国人留学生のコミュニケーション能力、専門知識、地域への適応性の各レベルを把握し、双方のミスマッチの解消に有効的なプログラムを開発した。</p> <p>就職に必要な基礎知識と技能、インターンシップ、観光現地での体験学習を体系的に実施し、外国人が沖縄企業で抵抗なく働けるように工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●開設講座数 : 30 講座</li> <li>●総授業時間数 : 358 時間（インターンシップを含む）</li> <li>●開設期間 : 平成22年9月1日～平成23年2月28日</li> <li>●現地体験学習 : ①中南部地区（平成22年12月14日） ②北部地区（平成23年1月7日） ③八重山・宮古地区 （平成23年1月19日～21日）</li> <li>●インターンシップ : ①株式会社 第一交通グループ 3人×6時間×1日 ②沖縄かりゆしアーバンホテル・ナハ 3人×6時間×1日 ③株式会社沖縄環境科学研究所 4人×6時間×3日 ④サイテク ITセンター ① 2人×6時間×3日 ⑤サイテク ITセンター ② 3人×6時間×1日</li> <li>●職業講演会 : 1回</li> <li>●セミナー参加 : 1回</li> </ul>			

「専修学校留学生総合支援プラン」のカリキュラム一覧

区分	分野	科目	講座名	時間数
座学 (286時間)	共通基礎	留学生就業支援 (30時間)	留学生の県内就職と就労の心得	10
			就職及び就労実務	10
			就職能力スキルアップ	10
	専門知識と技術	沖縄観光実務 (94時間)	沖縄観光の国際化と将来	8
			沖縄の歴史・文化と海外交流	8
			沖縄の世界歴史遺産と魅力	4
			健康長寿と沖縄の食文化	4
			沖縄の伝統芸能と魅力	4
			沖縄の伝統工芸と特徴	4
			沖縄の観光地理	8
			沖縄の自然とエコツーリズム	6
			沖縄の離島と観光資源	10
			海外観光客の受け入れとホスピタリティ	8
			ホテル実務	10
			ゲストへの接客と接遇	10
			ホテルマンのコミュニケーション	10
			IT技術	(63時間)
	ワード・エクセル演習	40		
	実践 e-mail	6		
	情報検索技術	6		
パワーポイントの技術	8			
コミュニケーション スキルアップ	職場コミュニケーション (90時間)	実践ビジネス用語	40	
		外国語（英語・中国語）	30	
		ビジネスプレゼンテーション	20	
フォローアップ 講座	留学生就業支援（9時間）	就職面接試験対策	9	
フィールドワーク (54時間)	現地体験学習	県内主要観光地 現地体験学習 (54時間)	現地体験学習(県内中南部地区)	6
			現地体験学習(県内北部地区)	6
			現地体験学習(県内宮古地区)	21
			現地体験学習(県内八重山地区)	21
計				340

インターンシップ (18時間)	インターンシップ	インターンシップ	株式会社 第一交通	
		〃	かりゆしアーバンリゾートホテル	
		〃	沖縄環境科学研究所	
		〃	サイテック IT センター	
		企業訪問	ハローワーク 企業訪問バスツアー	

### ②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

- 受講者は、本校に在学するインドネシアと中国からの留学生で、建築デザイン科、情報システム科、国際コミュニケーション情報科で学ぶ9人を対象とした。  
2年生3人、1年生6人。男女比は、男性6人、女性3人。
- 学科の授業とは区別して、「外国人就業支援特別講座」として実施した。

### ③受講者の状況

受講者9人の内訳は下記のとおりである。  
 男性6人、女性3人 年齢層は全員が20代  
 出身国は、インドネシア共和国（バリ島）が3人、中国が6人。

### ④受講者・企業の意識調査等

- 本プログラム終了後に留学生を対象に行ったアンケートによると、受講者満足度は下記のとおりである。（9人回答）  
 大変満足：3人（33%） 満足：2人（22%） 普通：3人（33%）  
 不満足：1人（11%） 大変不満：0人（0%）
- 「外国人留学生雇用アンケート」
- 県内観光関連企業へ外国人雇用の現状と企業が求める人材要件を把握するため、企業に対し、「外国人留学生雇用についてのアンケート」調査を実施した。（調査対象企業：48社）
- 調査結果を要約すると以下の通りである。
  - (1) 調査目的: 外国人観光客を受け入れるリゾート宿泊施設、リゾートオフィス、レストラン誘致を国際ショッピングモール等の事業等において、特に外国人観光客の集客を展開していることから留学生採用の実績を調査することによって、採用現場での実情を把握し、企業が求める人材を育成するための就業支援プログラム開発の参考にする。
  - (2) 実施期間: 平成22年8月4日(水)～8月13日(金) 実施

### 3 実施状況・回収結果数：

《 アンケート調査協力依頼企業 》			
	企業数	内訳	
対象社数	48社	① ホテル	20社
		② モール内ショップ	13社
		③ レストラン	9社
		④ レンタカー	6社
《 アンケート回収結果 》			
アンケート回収率	15社 (31%)	① ホテル	10社
		② モール内ショップ	1社
		③ レストラン	0社
		④ レンタカー	4社

### 4 アンケート集計結果

- ① 現在、貴社で外国人を雇用しているか。
  - ・雇用している → 5 (ホテルー 4、レンタカーー 1)
  - ・以前はいたが現在は雇用していない → 1
  - ・していない → 8
- ② 雇用形態は、次のとれに当てはまるか。(複数回答有)
  - ・正社員 → 2      ・契約社員 → 3      派遣社員 → 1      ・その他(アルバイト等) → 2
- ③ 今後、外国人留学生を雇用する予定はあるか。
  - ・ある → 0      ・検討する → 2      ・未定 → 4
- ④ 雇用している外国人留学生が所属している部署・若しくは職種はどれか。
  - ・フロントオフィス → 1 ・ベルマン → 1 ・レストラン → 1 ・通訳 → 1 ・その他 → 2
- ⑤ 雇用している外国人留学生の勤続年数は何年か。
  - ・2～3年以内 → 3      ・1年以内 → 1      ・その他 → 2
- ⑥ 雇用している外国人留学生の最終学歴は何ですか。
  - ・大学卒業 → 3      ・その他 → 2
- ⑦ 雇用している外国人留学生の性別は何か。
  - ・男性 → 3      ・女性 → 2
- ⑧ 外国人雇用人数は何人か。
  - ・5人以内 → 4      ・6～10人以内 → 1
- ⑨ 雇用している外国人留学生の年齢をお選び下さい。
  - ・21～23歳 → 2      ・24～30歳 → 2      ・31歳以上 → 2
- ⑩ 外国人雇用者の出身国はどこですか。
  - ・ネパール → 1      ・中国 → 2      ・台湾 → 1
- ⑪ 外国人留学生採用のポイントは何ですか(複数回答有)
  - ・日本語能力 → 10      ・専門知識・能力 → 1
  - ・日本語以外の語学力 → 6 (英語 2、中国語 1)      ・向上心 → 3
  - ・異文化への適応 → 6      ・日本文化、社会に関する一般教養的知識 → 3
  - ・性格 → 3      ・国際業務に関する期待 → 0

⑫ 社員として、最も重視する点は何ですか。(複数回答有)

- ・コミュニケーション能力→ 7
- ・協調性→ 11
- ・組織への順応性→ 8
- ・勤勉さ→ 3
- ・積極性・行動力→ 6
- ・ビジネスマナー→ 7
- ・専門知識の豊富さ→ 2
- ・日本語能力→ 9

⑬ 外国人留学生を採用する理由 (複数回答有)

- ・国籍に関係なく優秀な人材を確保するため→ 5
- ・海外の取引先に関する業務を行うため→ 2
- ・自社(又はグループ)の海外法人との調整業務を行うため→ 1
- ・日本人の営業を含めた社内活性化のため→ 1
- ・日本では確保しにくくなった専門分野を補うため→ 2
- ・その他(外国人観光客に対応するため・通訳業務)→ 1

⑭ 外国人留学生を採用する際、日本人と比べて不安に感じている点は何か。

- (複数回答有)・定着 / 離職率→ 7
- ・組織への順応性→ 8
  - ・日本語力→ 10
  - ・日本の文化、社会に関する知識→ 5
  - ・雇用手続き→ 7
  - ・指導の煩わしさ→ 4
  - ・協調性→ 4
  - ・顧客対応→ 7
  - ・性格→ 3
  - ・年齢→ 1
  - ・不法在留や刑罰法令違反等に関する不安→ 6

⑮ 外国人留学生を評価できる点は何か。

- ・向上心がある
- ・語学力がある
- ・勤勉さ
- ・積極性
- ・行動力
- ・外国人留学生を採用してみて、外国人雇用の前段階としてアルバイトとして紹介する所があって欲しい。(外国人観光客に対応する為)
- ・海外からのお客様を案内するための中国語・日本語・英語を使いこなせるコミュニケーション力を評価する。
- ・業種がホテル業である以上、外国のお客様も多数訪れる。日本語を勉強している留学生を採用することによって、語学などこれまでに不足していた能力を補うことができる。

○本プログラム受講前と終了後に留学生に対しアンケートを行い、留学生の実態や就職に対する意識等を調査した。

○結果を要約すると以下の通りである。

(1) 「プログラム受講前アンケート」

①なぜ、沖縄に留学したいと思いましたか？

- ・日本語を勉強したいから → 4人
- ・友人から安全で暮らしやすいと聞いたから → 2人
- ・母国と気候が似ているから → 2人
- ・日本の文化に興味があったから → 1人

②来沖する前の、沖縄の印象は？

- ・バリと似て、暑い所 → 2人
- ・海がきれい → 3人
- ・観光客が沢山いる → 2人
- ・旅行で行く人が多い → 1人
- ・中国と文化が似ている → 1人

③来沖前に、沖縄の①観光産業・②その他に興味がある方は、分野名を記入して下さい。

- ①観光産業に興味がある → 4人
- ②その他の分野に興味がある → 2人(IT関係)
- ③無回答 → 3人

④来沖する前に、日本語を話すことができましたか？

- はい → 3人
- いいえ → 6人

⑤母国語以外に話せる外国語はありますか？

- はい → 2人 何語ですか？ 英語 → 2人
- いいえ → 7人

⑥興味がある外国語はありますか？

- はい → 5人 何語ですか？ 英語 → 3人、中国語 → 2人
- 理由は？ 知っていると便利だから。 仕事が見つかりやすい
- いいえ → 4人

⑦沖縄に留学するとき、どんな心配がありましたか？

- ・日本語ができるか。 → 4人
- ・食べ物が合うか。 → 3人
- ・雪が降ると思っていた。 → 1人
- ・日本の習慣に慣れるか。 → 1人

⑧沖縄に留学するとき、注意した事はありますか？

- ・お酒を飲んで運転してはいけない。 → 1人
- ・丁寧な話し方や行動をする(日本人のイメージから) → 1人
- ・特に無し。(安全な国という認識) → 5人
- ・無回答 → 2人

⑨来沖する前、沖縄で就職したいと、思いましたか？

- はい → 3人
- ・どんな仕事をしたいですか？ ホテル → 2人、IT関係 → 1人
- いいえ → 6人
- ・どこで就職したいですか？ 母国 → 6人

⑩将来の夢を教えてください。

- ・中国で日本人観光客相手の仕事をしたい(ホテル・店員) → 2人
- ・バリでガイドになりたい → 2人
- ・母国で日本語の先生になりたい → 1人
- ・父の会社を手伝う → 1人
- ・沖縄のホテルで働きたい → 1人
- ・母国でIT関係の仕事をしたい。 → 1人

(2) 「プログラム終了後アンケート」

①「留学生就業支援プログラムを受講しての満足度を教えてください。」

① 大変満足	② 満足	③ ふつう	④ 不満	⑤ 大変不満
3人	2人	3人	1人	0人

②留学生支援プログラムを受講して、就職に対する考えが変わりましたか。

- ・ 変わった 7人 ・ 変わらない 2人 (母国で就職したい)

③どのように変わりましたか。

- ・ 沖縄で就職したくなった。 5人
- ・ 自分の国で就職したくなった。 0人
- ・ その他 日本で進学したくなった。 → 2人

④将来、どのような会社に入りたい、またはどのような種類の仕事をしたいですか。

リゾートホテル、旅行社、企業でIT関係の仕事、貿易関係

⑤そこに就職するために必要な資格やスキルは何ですか。

- ・ 日本語の能力 ・ パソコンのスキル ・ ITパスポート

⑥留学生支援プログラムを受講して、良かった点は何ですか。

- ・ 仕事に必要なビジネス用語を学べた。
- ・ インターンシップでホテルの仕事を体験できた。
- ・ 沖縄の観光について勉強できた。
- ・ 日本の会社での仕事の仕方が少しわかった。
- ・ パソコンについてたくさん勉強ができた。
- ・ インターンシップで仕事の体験ができて、将来、役に立つと思う。
- ・ 沖縄の自然とか離島についての勉強ができた。
- ・ 観光の授業が楽しかった。
- ・ 自分の学科では勉強できなかったことが学べた。

⑦留学生支援プログラムを受講して、困った点は何ですか。

- ・ 授業数が多くなったので、大変だった。 3人
- ・ 観光の授業では時々難しい言葉があり、理解できないこともあった。
- ・ ビジネスマナーの時、前に出て練習するのはちょっと恥ずかしかった。
- ・ ビジネスプレゼンテーションはもっと時間をかけてやりたかった。

⑧このプログラムでやって欲しかった授業や活動がありますか。それは何ですか。

- ・ もっと、沖縄の観光地に行きたかった。
- ・ 沖縄の文化と生活に興味があります。授業でやってほしい。
- ・ パソコンの授業がもっとやりたかった。
- ・ ビジネス用語は難しいので何回もやりたい。
- ・ インターンシップは旅行社でもやってみたかった。

## ○実用ビジネス用語講座との提携アンケート

①〈ビジネス用語確認テスト〉（別紙参照）を、文字・語彙・文法・ビジネス表現の分野に分けて、開講時の9月と3ヵ月後の2月に実施し、それぞれの項目について、平均点を比較した。

### 〈結果〉

- ・文法以外のそれぞれの分野において、10点以上平均点が上がった。
- ・特に文字に関しての成長率が大きい。
- ・各分野において、力は伸びているが、文法においては点数の伸びが少ないので文法の力を伸ばす必要がある。

②〈4技能〉 聴く・書く・話す・読むの4技能について、開講時の9月と3ヵ月後の2月に自己評価をさせた。（自己評価表は別紙参照）そしてその平均点を比較した。

### 〈考察〉

- ・それぞれの技能について、力が伸びていると各自、感じている。
  - ・開講時と比較して、話す技能があまり上達していないと感じている。
- しかし、それは開講時においてすでに、ある程度の会話ができる状態であったからとも言える。
- ・聴く技能に関しては、ビジネス用語や丁寧語、尊敬語等についてかなり時間を取って学習したので、社会生活における語彙が増えた事により、聴きとり易くなったのではないか。

## ⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

- ・受講者9人全員が講座を修了した。
- ・うち、3人が2年生で就職対象者であったが、1人は母国で就職希望で、残りの2人は進学予定である。その他6人は1年生で、来年度本校を卒業予定である。継続して就職を支援する。

## 3. 事業の評価に関する項目

### ①「当初目的の達成状況

当初の目的は留学生の県内企業への就職支援プログラムの開発と実証であったが、実際の就職内定者は無かったものの、プログラム受講前の県内就職に対する希望が無かった1年生の学生達が、終了後には5人も県内就職に意欲的に変化したのは、講座の目的を達成したと言えるのではないか。

### ②事業の成果及び改善点

主な成果は下記のとおり

- (1) 受講生9人中 5人の留学生が県内就職希望となった。
- (2) インターンシップを通して、企業に外国人留学生の受け入れへの安心感、期待感を抱かせることができ、外国人採用へのステップとすることができた。

改善点としては、

達成度アンケートの結果から、留学生自身がコミュニケーション能力において、更なる向上が必要と認識しており、日常会話を超えたビジネス用語、生活文化に関する日本語の語彙を活用したコミュニケーション能力を鍛える必要がある。



(2) インターンシップの機会や業種を増やし、いろいろな企業内での指示、報告、調整などの組織風土を体験させ、就労意識を高めさせる。

### ③次年度以降における課題・展開

来年、本校を卒業予定で、県内に就職希望を希望する留学生がいることから、引き続き本プログラムを実施し、県内企業への就職を支援し実現させたい。

### ④成果の普及

本プログラムの講座テキストを県内の観光関連企業等に配布し、外国人雇用への橋渡しとなるようにしたい。また、地域在住の外国人の参考となるよう、市町村や大学等の交流センターへ配布する予定である。

また、3月8日に本校において、本プログラム関係者、留学生、協力企業を集めた就業促進及び支援講演会を開催し、本事業の成果の普及に努めた。

本記入例は、あくまでも記入例であり、報告内容をイメージしていただくために作成したものです。この記入例と異なる態様で作成いただいても構いませんが、文部科学省としては、本事業の成果を対外的に説明する際、できる限り統計データ（就職率等）を用いて成果を示したいと考えております。よって、記載例にあげた指標については最低限ご提供願います。

なお、今回作成いただいたものは、内容を確認後、成果報告書として文部科学省のホームページに学校名等とともに掲載されます。わかりやすい記述、参考となる情報等、記載内容の充実を心がけてください。

なお、写真や図形等は容量によりホームページへの掲載ができない場合がありますので、ご留意ください。